

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ロータリー：変化をもたらす

2017-2018年度 国際ロータリー会長 イアン H.S. ライズリー



2017-2018年度

会長:加藤一郎 幹事:福田哲三 クラブ会報委員長:花橋日出夫

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2018 February 7

2017~2018年度方針

Enjoy Rotary—

Enjoy Nagoya Wago Rotary Club

NO.29

例会報告

●第2208回例会 平成30年2月7日(水)曇

●2月は平和と紛争予防/紛争解決月間

●君が代

●ロータリーソング 奉仕の理想

●出席報告 会員 93 (82) 名中 出席58名

出席率70.73% 修正出席率75.61%
(1月24日分)

●ゲスト紹介

・ゲストスピーカー

野村総合研究所 顧問

東京大学公共政策大学院客員教授 増田寛也氏

・米山奨学生 葉 璇さん

●ニコボックス

「親愛なる増田さんを卓話をお願いして大変楽しみにしています。お礼に東京でおいしい食事を設営します。」

谷 喜久郎君

「本日、増田先生をお迎えして卓話をいただきます。大変に興味深い話をいただくことに感謝申し上げます。」

プログラム委員会一同

「増田寛也さん ようこそお越し下さいました。卓話を楽しみにしております。」

間地 寛君、福田哲三君、黒田史郎君

服部 滋君、宮下幸二郎君、上野山 進君

加藤智弘君、福井義和君、南 喜幸君

山本文彦君、平木聖三君、高木一平君

増田靖憲君、加治佐健二君、桑山卓也君

坪井和義君、蜂須賀太郎君、安井信之君

田中知克君、梶田浩太郎君、伊藤勝康君

近藤東臣君、小池康資君、小松佳史君

山村博伸君、富島照男君、久保和彦君

「連日寒さが続いています

そこで一句

やせ我慢 伊達で通らぬ 歳となり」

鷲塚貞長君

本日のニコボックス 4件 66,000円

累 計 152件 1,381,000円

福田哲三幹事報告

▽2月のロータリーレート

2月のロータリーレートは、1ドル110円です。

▽当クラブ行事予定

・2月7日(水) 本日、卓話の時間を30分延長致しますので、例会終了時間が14時となります。

・2月14日(水) 名古屋名城RAC合同夜間例会です。ローターアクトとの合同例会のため、18時30分～となります。場所はホテルナゴヤキャッスルです。

※お昼の例会はございません。

・2月21日(水) 例会終了後、理事会を開催致します。

※理事及び役員のご出席をお願い致します。

・2月26日(月) IMを開催致します。場所はホテルナゴヤキャッスルです。

受付 15時~16時

第1部 式典 16時~16時30分

第2部 講演 16時30分~18時

第3部 懇親会 18時15分~20時

※2月28日(水)の例会はございません。

※2月1日(木)よりホテルの名称が変更になりました

旧 ウェスティンナゴヤキャッスル

→新 ホテルナゴヤキャッスル

加藤一郎会長挨拶

わたしの事業所のある中区新栄の白山中学校では、Special Working Weekと銘打ったプロジェクトが20年間継続しています。内容は、近くの事業所において、2年生を1週間働かせていただくというものです。弊社も協力させていただいていますが、先輩会員の岩田さんの事業所(アイ・ワット)にも協力いただいております。

元は、震災後の神戸の長田中学校で始まり、次の

年からは兵庫県中の学校に広まるとともに、名古屋市立白山中学校でも開催するようになり、以後毎年継続しているものです。教育の一端をになう授業として効果を上げています。まず何より、生徒が礼儀正しくなり、言葉遣いもよくなります。先生方もその結果に驚き、毎年バージョンアップしながら続けてきています。

地域の事業所の皆さんは、中学生に勤労体験をさせ、育てようという気持ちで受け入れていただいています。子どもを地域で育てようという温かいところが、中学生が大人の社会を少しだけですが体験できることにより、よい習慣を作り上げてきていると思われまます。

卓 話

地方創生と課題

野村総合研究所 顧問

東京大学公共政策大学院客員教授 増 田 寛 也



1. はじめに

昨日まで大学のゼミ合宿で大雪の新潟に行ってきました。特養、デイサービスの施設を訪問し、地方の高齢化・介護問題の実態を研究させています。地方創生の主たる課題として人口集中による東京問題、つまり高齢化危機・介護破綻と地方の人口流出、地方消滅という地方問題は一体として取り組まねばならないものです。つまり地方創生は田舎だけの話ではなく、名古屋、大阪といった大都市もしっかりと取り組む必要があります。

2. 「いつでもどこでも誰でも」プチ東京

地方行政を見てみると何でも「プチ東京」「ミニ東京」を目指している。地方にマクドナルドやスターバックスが必要か？ 確かに「いつでも、どこでも、誰でも」利用でき、あれば便利だがそれは東京基準を地方に持ち込もうとするものである。金沢の東急ハンズもしかり。同社渋谷店など大きい方が勝つに決まっている。東京が勝つに決まっている。そうでなく例えば、春夏秋冬の地方の素材を生かした品揃えの「道の駅」などでは地方の独自性を一生懸命追及していくことが肝要。

3. 作るよりも気持ちを伝える

地方創生のポイントは「良質な仕事」の確保、「プチ東京化」からの脱却、「地域の火付け役」の登場。先ほどの「道の駅」について。岩手県遠野市の「遠野風の丘」は全国モデル道の駅として独自性を認められた。ポイントは「特色、ウリ」をどうするかだ。「作ること」についての問題は無い。「食べればわかる」「来ればわかる」として「伝える」ことをしていない。「作る」より「伝える」だ。

4. もの消費からコト消費へ

ある学会開催に際し、ただ単にホテルに宿泊し見物するにとどまらず民泊し、地元の人が利用する店で買い物をするなどで地域を体験したいという「体験型」で運営された。こうした「もの消費」から「こと消費」も大都市はもちろん地方創生のキーワードだ。

5. 地域おこし協力隊

地方から若い人が大都市へ流出している。若い人はミッションのはっきりした仕事があれば地方に戻ってくる。「地域おこし協力隊」は有償で若者を募集し、地域で生活して地域協力活動を行っている。数年の活動の後定住する人たちが増えている。新潟県十日町、宮崎県日南市など成功事例が続いている。

6. シェアリングエコノミー・所有から利用へ

「Uber」に代表される巨大なプラットフォームがシェアリングエコノミーを拡大させている。「所有」から「利用」への大変革が起こっている。大都市はしがらみが多く導入にあたって困難が多い。地方のほうが導入しやすい。

7. 人工知能が職業を変える

地方創生では労働力不足が課題であるが、AIの進化でコトは変化するだろう。FM和歌山ではAIアナウンサーが登場した。24時間放送のうち深夜には人が1名にAIアナウンサーの組み合わせで運営している。大雨時に大停電がおき唯一FM和歌山がAIアナウンサーによって災害情報を伝え続けた。地方創生で若者によく言っていることは職業がAIにとって代わられる時代であり首都圏にすることが必ずしも優位ではない。大都市中心の価値観の変化によりAIが人材還流に寄与するかもしれない。

例会	月日	今後の予定
第2209回	2. 14	名古屋名城RAC合同夜間例会 18:30～ ホテルナゴヤキャッスル (旧 ウェスティンナゴヤキャッスル) (お昼の例会はございません)
第2210回	2. 21	田尻幹夫国際奉仕委員長 長坂シェリル氏(英語教室経営) 「フィリピンの今 (日本在住15年からの視点)」
第2211回	2. 26 (月)	東名古屋分区IM開催 ホテルナゴヤキャッスル (旧 ウェスティンナゴヤキャッスル) 受付 15:00～ 式典・講演 16:00～18:00 懇親会 18:15～20:00 (2/28(水)の例会はございません)
第2212回	3. 7	久保哲政社会奉仕委員長 「社会奉仕とIOT」

○このウィクリーは再生紙を使用しております。